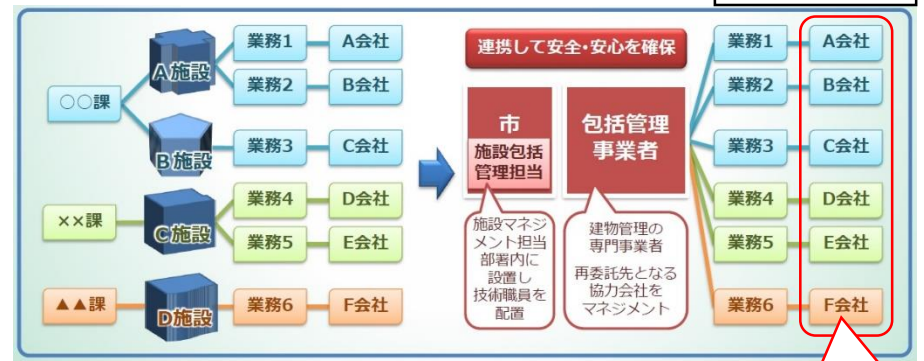


公共施設包括管理業務委託について

【現状の課題】

- 公共施設等総合管理計画、公共施設個別施設計画、行財政改革実行プラン等で公共施設の適正化を図ることとされているが**短期的なコスト削減は見込めない**。
- 大規模工事については施設管理課（建築系技術職員）による技術支援が行われているが、施設を管理する様々な業務委託の事務や安価な修繕業務は施設所管課の対応となっているため、**重い業務負担**となっている。
- 大半の施設で事務職員が管理を担当しており**技術的ノウハウが不足**している。
- 施設の日常点検ができておらず、**事後保全が主流**となっている。

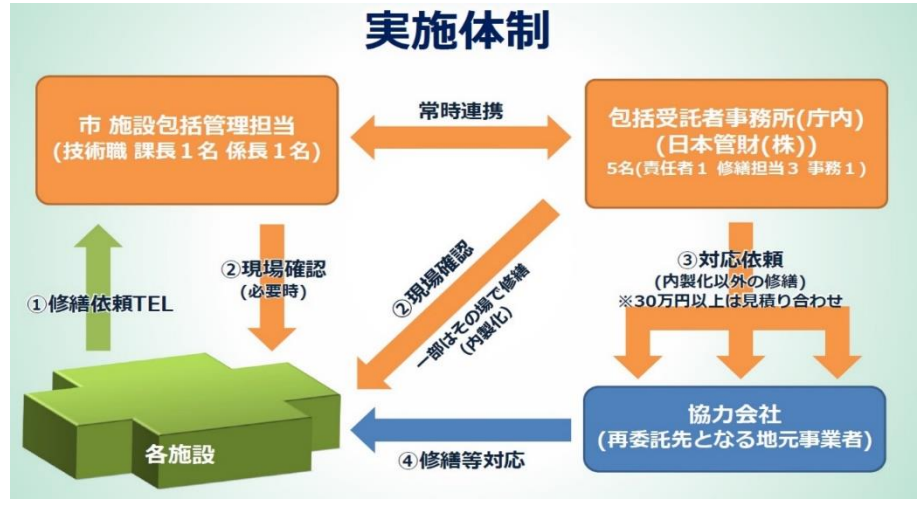


事業イメージ（明石市検討資料より）

委託先を入れ替えるものではない

市内の公共施設を対象に、包括管理業務委託を検討

- ハード面の公共施設の適正化だけでなく、ソフト面からのアプローチを行うことで、**スピード感を持った取り組みを**実行させる。
- 委託業務における**契約事務等の負担を無くし**、日常的な修繕業務についても、**技術者を派遣することで内製化**や早期に専門的な対応が可能となる。
- 包括管理の導入により、受託事業者から**専門的スキルを吸収**することが可能となる。
- 施設の日常点検を受託事業者が行うことで、将来的には**予防保全を実現**させる。
- 公共施設の状況を一括管理することで、**全ての施設に関する情報を横断的に把握**することが可能となり、実効性のある修繕計画の策定が可能となる。



実施体制イメージ（明石市検討資料より）

【スケジュールについて】

- 令和5年度
 - ・サウンディング型市場調査の実施
 - ・サウンディング型市場調査の結果の公表
 - ・事業化の可否決定
- （以下、事業化が決定した場合）
- 令和6年度
 - ・公募の実施
 - ・優先交渉権者との協議・調整
- 令和7年度
 - ・事業開始（4/1より）

【参考】

全国83の自治体にて実施済（日本PFI・PPP協会資料より）
 県内実施自治体（一宮市、豊田市） 2023年6月時点

LED照明設備のリース導入について

LED照明設備導入の背景

- ・水銀灯ランプ及び蛍光灯器具については、国内製造が終了しており施設によっては代替品にて対応しているケースがある。
- ・蛍光灯ランプは近年高騰しており、メーカーによっては令和5年10月から約40%の値上げが行われる。
- ・国は、2030年までに政府全体の施設についてLED化100%を目指している。
- ・照明設備のランプ交換が、施設職員の負担となっている。また、高所の機器については高所作業車が必要となるなど維持費用が高額となる。

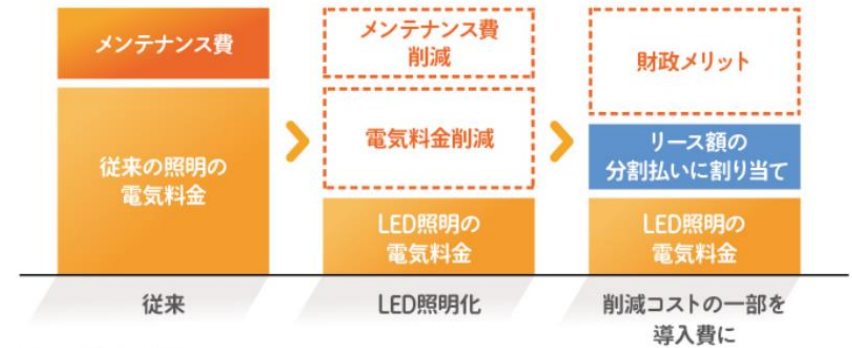
照明設備のLED化によるメリット

- ・既存照明のLED化により、電気代を約60%節約可能。
- ・蛍光灯の光源寿命が約10,000時間に対し、LEDは約40,000時間と長く、管球交換の作業も削減可能
- ・機器の発熱が少なく火災リスクが低い、またガラス等を使用しないため地震時の落下による事故のリスクが低い。

リースを導入することによるメリット

- ・複数施設にLEDを導入する場合、一時的に多大な費用を要するが、リースの場合コストの平準化が可能となる。
- ・リース期間中は、照明設備機器の維持管理・故障対応は事業者により無償で実施。
- ・リース終了後（10年後）は、市へ無償譲渡。

● 単月の費用配分イメージ



令和5年度導入予定施設

もえの丘

保育園（3園）

図書館・歴史民俗資料館

健康ドーム

中学校グラウンド照明（2校）

※小中学校や給食センターについては、今後の導入にむけ検討中

健康ドームでの試算結果（例）

	既存照明	LED導入後
消費電力量 (kwh/年)	656,006	238,626
従量電気料金 (10年間)	164,608,215	59,877,247
交換ランプ費用 (10年間)	17,640,488	0
リース費用 (10年、税込み)	0	85,617,912
計	182,248,703	145,495,159

36,753千円のコストメリット